

議 事 録

会 議 名	平成27年度 第2回寒川町生涯学習推進会議		
開 催 日 時	平成27年10月29日（木） 午後1時15分～午後3時		
開 催 場 所	寒川町民センター 3階 小学習室		
出席者名、 欠席者名及 び傍聴者数	出席者：鈴木委員、菊地原委員、及川委員、細野委員、伊藤委員、加藤委員、 江島委員 欠席者：恵羅委員、吉田委員、木村委員 事務局：中島町民部長、芹澤協働文化推進課長、山口協働文化推進課主査、 白井協働文化推進課主事 傍聴者：なし		
議 題	報告事項（1）「寒川 学びプラン」第3期実施計画（案）の策定について		
決 定 事 項	○議事録承認委員は、会長及び副会長が務めることを確認。		
公開又は 非公開の別	公 開	非公開の場合その 理由（一部非公開 の場合を含む）	
議事の経過	<p>1 開会 協働文化推進課長</p> <p>2 あいさつ 中島町民部長</p> <p>3 議事録承認委員の指名 鈴木会長、江島副会長</p> <p>4 協議事項 （1）「寒川 学びプラン」第3期実施計画（案）の策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1について、事務局から説明。 平成28年度から「寒川 学びプラン」第3期実施計画に入るにあたり、実施事業について検討していきたい。 これまで実施計画は5年間で設定をしていたが、第3期は町の総合計画と期間を合わせるために、前期2年、後期3年として中間見直しを行う。 また第2期実施計画の反省点を踏まえ、①対象とする実施事業数②7 取り組み方針における重点事業の設定③達成度を測る目標指標の設定 ④総合計画との整合性の4点を見直し、PDCAサイクルにのっとった構造とする。 ①については、第3期実施計画は「町民への学習機会の提供」に重点をおき、資料1の8ページのとおり、取り組み方針3項目とそれに伴う5つの重点事業を設定した。 ②について実施計画の第1、4、5節の事業は、取り組み方針を生涯学習推進のための方法の検討と定めたため、概ね第2期の事業を踏襲している。 第2節ライフステージと第3節分野ごとの事業については、寒川町の関連部門別計画等（子ども子育て計画、教育振興基本計画等）の内容と重複する事業が多いため、大幅に見直しを行った。 また第5節の3施設の有効活用と参加を支える環境づくりについては、年間統計的な数値がまとめられるよう設定を行った。 実施事業については、同資料10ページ以降、第2期との変更点につ 		

いては21ページ以降に掲載している。

③については、実施事業を237から84と大きく見直しを行った経緯もあり、委員の皆様のご意見を取り入れた上で、改めて目標と数値の設定を行っていきたいと考えている。

目標設定については④を図っていく方向だが、本プランの視点は「町民への学習機会の提供」であるため、講座・教室等の開催については年間の開催回数、人材育成については登録者数としている。それぞれの事業について、量的に把握することで比較可能なものとなるように検討している。この方向性でよろしければ、目標数値は昨年度の実績をもとに、パブリックコメント実施時まで揃えていく予定である。

また、実施計画策定にあたってのスケジュールは、資料3のとおりである。今回の提案と大幅な変更を求める意見が出た場合、パブリックコメント実施時までの修正は困難だが、細部の修正に対する意見については、2月の会議までに反映が可能である。

以上の内容を踏まえて、委員の皆様からのご意見を頂戴したい。

(会 長) 皆様いかがか。

では、私からでもよろしいか。先日、藤沢や三浦地域まで含めた研修会に参加し、東京都小平市の若い公民館職員の講演を聞いた。公民館と図書館に来る人の次の行き先は墓場であると言われていたことを彼は気がつき、改革し、地域のサークルの増加や活性化に熱心に取り組み、その結果地域の結びつきの強化に繋がったという事例発表だった。前回の会議において、事業に対する目標指標や数値の設定を依頼したが、その結果が町の地域づくりにどのような影響を与えるかという視点が必要ではないか。人数の数値が減っても、住民にとって良かったと思えるものについては捨てがたい大事なものであるため考慮に入れて頂きたい。

「協働の町づくり」を掲げる寒川町にとって、生涯学習の持つ意義は大きいと感じる。社会教育委員会でも議論しているが、現在の町内のサークルは自己充足の部分の大きい印象であるため、地域の結びつきを強化していくためには、社会的要素の強い団体を増やし、住民主体の町づくりが行えるような環境を作っていくことが重要ではないだろうか。

また現在町内のサークル数や加入人数は減少傾向にあるため、公民館職員の意識やあり方を見直し、行政として団体支援に取り組まなければ、情報を提供しただけでは、本プランは絵に書いた餅になってしまう。パブリックコメントを行っても限られた特定の人しか書いてこない。生涯学習はまちづくりにとって良いことであり、意欲ある人とうまく結びつけていくことを小平市の職員は「結」と表現していたが、公民館職員と住民のレベルをどう引き上げていくかが課題だと思う。

今回の実施計画案は整理して読みやすくなったがそのような視点を入れて欲しい。例えば、平塚市と茅ヶ崎市の公民館を調べたが、サークル活動をカテゴリー別に分けて紹介する冊子などがある。福祉関係も入っていた。この町でも4割以上がリタイア組となっていくことから、住民活動のノウハウはなくても、元気な彼らの知識と経験をこの町に活かしていくということが大事だと思う。今のシニア層はお金に余裕があるが、今後は年金がもらえないような時代になってくる。今、まちづくりの基礎をしっかりを作らないといけない。彼らの経験を活かせるような内容がこのプランでは読み取れなかった。

(委 員) 実際に町で活動している自分たちにとっては、資料の活字を見るだけでは、プランの内容が理解出来ない。もっと町民がわかりやすい、入っていきやすい環境づくりをしてほしい。資料だけでは難しい。

(会 長) 南部公民館で生涯学習推進員を担っているが、ここで活動しているサークルは自分たちの活動以外に横の繋がりがほとんどない。年1回の公民館まつりくらいが他のサークルと交流する機会のようなのだが、他の館とは繋が

りがない。このような小さな町でこの状況はおかしいと感じている。生涯学習推進員の活動はマンネリ化している。南部は5～6人で行っているため、ほとんどの事業に絡んでいかなければならない。2ヶ月に1回は事業をしている状況である。ずっとやっているとネタ切れになる。この他に自主的な映画会やコンサートも企画しており、本来は公民館活動と生涯学習活動の一環で行いたいが、待ってられないのと、収益の関係から自分達で行っている。映画会にしてもそれぞれのサークルが競うように活動すれば、この町の発展となるが、そのような動きもない。前年踏襲で延々同じで変化がない。それでは嫌われてしまうし、誰も公民館に来なくなってしまふ。立派な冊子を作っても見てもらえない。そこに情報紙を発行しても、それを誰が見るのか、次のアクションを図る尺度がない。今の組織をコーディネートする人や組織をおいてほしい。例えば、自分達の活動をNPO化したいが、知識のある所に頼むと何万円もする。単なる趣味の団体から、充実した組織になるように町が支援をしてくれる部局や知識のある人間、仕組みを作ってもらえるとありがたい。推進員も単なる数合わせにしてしまうと衰退してしまう。今の町民ニーズをくみ取っていない。急激でなくても、少しずつでも意識改革することで小さな予算で変えられるチャンスである。住民は生きがいと社会的な意義を感じられる。町も町民もWIN-WINの関係になる。

(副会長) プランを見ても住民の気持ちとプランの関係性がわからない。住民の要望が第3期実施計画にどのように反映されているのだろうか。住民と学びプランとの距離感を感じる。第2期からの結果を踏まえて、そのため第3期に繋がったことがわかるようにしてほしい。この会議以外にも住民の意見を聞く機会はあると思うが、その意見により、このプランになった、公民館活動につながるものが読み取れない。それが1枚出せるといいのだが。

(事務局) 本プランは、基本計画策定時に行った町民アンケートの結果が反映されたものになっている。町民の幅広いニーズを反映させたい思いはあるが、アンケートを実施する機会が限られている。前回の会議でもご意見いただいたが、物言わぬ住民の意見をどのように得るかは難しい。

(会 長) この町は町民の意見を欲しい時にアンケートの手法をよくとるが、私は民間の会社でマーケティングをしてきたので、情報というのはお客さんとFace to Faceで密着して得るもので、アンケートで取った意見で商品が売れるかというまじく売れない。お客は困っていることなんて言わないので、企画する側が人間関係を作って探らせるところで課題がわかり、良い製品ができてヒットする。それなので、公民館に来ない人のことを考えるよりも、今利用している人の満足度を上げれば、評判が広がり、人が来るようになるのではないかと。アンケート用紙で人が来るようにはならない。7割の来ない人は必要性がないから来ないのである。情報発信をするときもいかに住民ニーズをつかむことが行政側の一番の課題だと思う。3割なんて良い方だと思う。無関心の人の方が目立つ。パブリックコメントは紙の無駄だと思う。誰も読みはしない。難しい用語で書かれているからほとんどの人はわからない。ボランティアの人などに、町をよくするためにどのようなことをしたらいいか聞いてはどうか。この町の人口が減っていく中で、住みよいから寒川町に住もうよ、と思われるようにしなければならない。生涯学習の集まりは安いコストでとてもよいエンジンだと思う。

(副会長) アンケート以外の方法で、公民館などの集まりで利用者のニーズをくみ取ることは出来ないのか。公民館職員や生涯学習推進員などに協力いただいて住民の声を聞くことはできるのではないかと。

(事務局) 実際に公民館職員は普段から利用者の窓口の声をよく聞いている。私自身も窓口に来た町民の方との会話から意外なニーズを得ることも多い。公

民館職員は利用者のニーズを考え、これまでにない新しい講座の開催に取り組んでいる。しかし講座参加者の大半は女性のため、現在は男性向け講座の集客が課題である。

他市では図書館に男性向けのイクメン講座のチラシを配架し、集客が多くあったことから、ニーズを捉えた場所に情報発信を行うことが有効であると改めて感じた。

別のプラン策定の会議で、そこの委員からこのプランには寒川町らしさがない、という意見があり、学びプランにおいてもあてはまる意見であると思っ、今回の実施計画でも悩んだ点である。その中で、重点項目に置いた子ども生涯学習情報紙「すきっぷ」の発行は町民のニーズもあり、寒川の誇れる事業だと自負している。広報にも毎月掲載されるが、広報の情報量が多すぎて、生涯学習情報は埋もれてしまう。大人向けにも講座情報などを発信できる方法を行いたいとは考えている。

(会 長) 他市での取り組みと同様に、大人向けにはブログやメール配信等を利用してはどうか。パソコンを使える人に対して、コストをあまりかけずに情報を提供する手段も有効ではないだろうか。

(委 員) 公民館に行けば地域の情報が得られる環境づくりの必要性を感じている。現在子育て世代が公民館を利用する目的は、場所借りのためだけであり、このままでは地域での継続が望めなくなってしまう。公民館職員でもその地域の情報を知らない人が多い。

現代は生活困窮者が多く、地域に目を向けられる余裕のある人が少ない。そのためスーパーバイザー等の外部の声を取り入れるなどして、公民館に来た人に対するきっかけ作りを行っていくことが必要ではないだろうか。生涯学習人材登録者を利用して、子育て支援センターでも講座を開催しているが、その地域の方を活用することで身近に感じられることに意義があると思っている。場所貸しだけではもったいない。

(委 員) 町が生涯学習の分野で237事業行っていることを、生涯学習推進会議委員になって初めて知った。公民館の利用にしても、講座にしても情報発信することが最大の課題だと思う。また参加して楽しいことでないと参加者は増えない。つまらなければ1回行ったら終わりである。多くの町民が同様の状況であると感じるため、情報の周知徹底を行い、講座参加者の満足度を上げていくことが必要ではないだろうか。また高齢者にはボランティア精神に長けている方が多い。PRにしても高齢者の力を活用して、生涯学習の活性化に取り組んで貰いたい。

(委 員) 資料1の11ページにある「地域のせんせい」ふれあい推進事業を行っているが、講座内容の決定や講師の手配に頭を悩ませている。地域にどのような方がいるのか学校ではわからないことが多い。そのため講師人材バンクの充実に取り組んでいただき、コーディネートしていただける方がいるとありがたい。

また、各講座では世代ごとの交流は可能でも、世代間交流が出来ないことから、地域の結びつき強化には繋がらないと感じるため、解決策を練っていただけるとありがたい。

講座にしても出られる人が出る講座、という印象がある。仕事や生活が大変だと出られないと思う。同資料9ページにある「個別の課題に対応する学習機会の充実」では、必要な人に必要な講座が届けられるようになってほしい。例えば、学校にも外国籍の方が増えており、言葉だけでなく文化の交流もできるような機会が充実されれば、様々な人々が生涯学習に取り組むことで、豊かな町となっていくのではないだろうか。

(事務局) 町にも人材バンクの仕組みはあるが、講師の人となりの把握が難しい現状もある。そのため、コーディネーター役を当課職員が担いながら、人材

育成事業の強化の必要性を感じている。

(事務局) これまでに出していただいた皆様の貴重なご意見は、それぞれの事業の中身に反映し、明示していきたい。しかしながら、プランを文書化するという制約があるためわかりにくい部分が出てきてしまうが、事業概要の表記を改めるなどして、わかりやすいプランにしていきたいと考えている。以上の点を改善した上で、第3期実施計画における取り組み方針と5つの重点事業は、この内容で進めてよいだろうか。

(異議なしの声)

(会長) 生涯学習と社会教育の部局が分かれているが、そこは統合されないのか。この小さな町ではやっていることに差は無い。分かれていることに住民にとってはどうでもよいことである。

(事務局) 平成25年度から組織変更され、生涯学習は個人を対象としており、全庁的に関連することであるため首長部局に属することになり、社会教育は教育委員会が所管する業務として残っているのであるが、町民からはさらにわかりにくいとの意見は多々いただいている。担当課としても何とかわかりやすいように、生涯学習を推進できるように今回の実施計画でも見直しをして、重点事業を掲げることを考えた。このような形で重点事業を掲げることでよろしいか。

(会長) 方針はこれでいいと思うが、今回のプランに入れなくても、茅ヶ崎市の市民活動センターのように町民の活動支援制度の充実や、仕組みづくりに力を入れて取り組んでほしい。個人の経験を活かしたり、いろいろな団体の活動が切磋琢磨し、活発になることが望ましい。自分の団体だけが大きくなればよいとは思わない。どこかで団体を支援するような仕組みがほしい。また、格差社会が進む現代では、公民館でお茶が飲めたり、子どもが遊べるスペースを設けるなど人の輪が広がるような利用方法を検討してほしい。例えば、総合図書館があるのだから、南北の図書室スペースはサロンスペースに模様替えすることなどは考えられないだろうか。そのようなことで人の輪ができる。30何年も建物を同じ使い方をするのではなく、お金をかけずに、公民館の用途を変化させていかなければ、寒川から離れていく人が増える一方ではないだろうか。

(事務局) 今後は町や公民館職員が利用者と向き合い、意見や要望等を運営に反映出来ていない部分については改善していきたい。

また、これまでも情報発信は行っていたが、今後はメール配信やtwitter等、あらゆる手段を用いて町民に情報の周知をはかれるようにしていきたい。どのような媒体で情報入手したか探るのも興味深いと思う。

コーディネーターや人材育成の部分については、充実した仕組み作りを行っていききたいと考えているが、現在当課では幅広い業務を抱えていることから難しい状況にあるため、機構改革等を行い、生涯学習専門の部署を作るなどして対応していきたいと考えている。

また、公民館の用途については、多目的に使用できるように見直しをかける仕組みづくりが既に始まっている。生涯学習の推進、支援については、協働文化推進課を中心に他課にも繋いでいき、推進を図っていきたい。

(副会長) 資料2の目標設定について説明をお願いしたい。

(事務局) 目標設定の視点を統一し、学びプランとして数値の把握、評価を行うために、講座・教室等は年間の開催回数、人材育成については登録人数とし、その他のジャンルについては、総合計画に基づいて設定を行っている。

	<p>(副会長) 開催回数ではなく、参加人数の方が重要ではないか。</p> <p>(事務局) 講演会と講座であると前提となる定員が違うため、人数で測ると事業で差が大きくなる。1年目に講演会、2年目に講座・教室を実施するなど年度ごとに異なる事業を行った場合、比較が出来なくなってしまうため、機会の提供を重視して開催回数で設定を行った。もちろん報告のなかでは人数も記載するが、指標としては回数としたい。</p> <p>(副会長) 事業を何度実施しても、参加人数が少なければ目的を達成出来ていないことになるため、参加率にしてはどうか。回数ではなく、定員に対する充足率を明確にすることで、よりよい講座開催のための検討材料となりうるのではないだろうか。人数が少ないことは内容が悪いのか、周知が悪いのか。</p> <p>(事務局) プランに反映可能かどうかも含めて、検討させていただきたい。最後に資料4については、パブリックコメント実施の周知のため、自治会回覧で使用するものである。</p> <p>(会 長) この資料4の内容で「生涯学習推進員を設置し」とあるが、現在すでに設置されているが、見直しされることになるのか。</p> <p>(事務局) 当初の基本計画の内容から引用しており、誤りであるので「設置されている」と修正する。</p> <p>(会 長) 各公民館の生涯学習推進員は年1回でも全員が顔を合わせるミーティングする機会を行ってほしい。同じような活動をして顔を合わせる機会がないのはおかしいと思う。</p> <p>(事務局) 本日頂戴したご意見はそれぞれの所管課に伝えて、改善に向けて取り組んでいく次第である。</p> <p>4 閉会 江島副会長</p>
配付資料	<p>資料1 「寒川 学びプラン」第3期実施計画 前期（平成28～29年度）（案）</p> <p>資料2 第3期実施計画実施事業の目標設定（案）</p> <p>資料3 「寒川 学びプラン」第3期実施計画策定に向けた今後のスケジュール(予定)</p> <p>資料4 「寒川 学びプラン」第3期実施計画（案）について（概要）</p>
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	<p>・鈴木 茂 ・江 島 新 吉</p> <p style="text-align: right;">（平成28年2月12日確定）</p>